

関連科目、教科書および補助教材	
関連科目	国語Ⅰ、国語Ⅱ
教科書	「精選現代文B」(三省堂)
補助教材等	「カラー版新国語便覧」(第一学習社)
学習上の留意点	
<p>○読む、書く、話す、聞く、考えると言った基本的な国語力を一通り学習する。</p> <p>○教員の一方的な講義ではなく、毎時間、学習内容や目的に応じて学生の主体的な活動(アクティブラーニング)を行う。</p> <p>○授業では、ほぼ毎時間プリントを配布する。そのため、プリントを整理するファイルを準備しておくこと。</p> <p>○遅れないようにレポートを提出すること。仮に遅れたとしても必ずレポートを提出すること。</p> <p>○授業を欠席した場合でも、学習内容をクラスメートや教員に確認し、レポートを必ず提出すること。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>授業にはアクティブラーニング(AL)を積極的に取り入れ、学生のみなさんが主体的に授業に取り組めるような工夫をします。</p> <p>また、授業の最後には毎回レポート課題を課し、到達目標の達成および学習内容の定着をはかります。少々しんどい授業になると思いますが、がんばってついてきて下さい。</p> <p>なお、授業では下記に記す授業内容以外に、漢字テスト(漢字問題集)、読書(年間20冊。一行感想)、ディクテーション(聞き書き)を継続して、あるいは一時的に集中して行う予定です。3年間の国語の総復習の意味を込めています。</p> <p>さらには高校3年生という人生の岐路に立つ学年であることを踏まえ、1年間を通じてキャリア教育を兼ねた授業を実施する予定です。</p>	

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	ガイダンス	○シラバスを用い、授業の概要、学習到達目標、成績評価方法を理解できる。 ○授業の方法、配付資料の整理の仕方を理解できる。	シラバスを確認する。 配布資料を確認する。
2	読解と要約①	この単元では読解力を習得するために線を引きながら文章を読み、線を引いた箇所を用いて要約文を書く。それにより要約力を身につけることを目的とする。	○予習 ・前回配布したプリントを見ておく。 ・小テストなどある時は事前に勉強していく。 ○復習 ・授業内容に関連したレポート課題に取り組む。 ・×切に間に合うように必ず提出する。 ・返却された自分のレポートや、優れたレポートのコピーを見ることで、次のレポートの制作に活かす。
3	読解と要約②	「要約」とは、複雑な事象のなかからキーワードやキーセンテンスを抜き出し、それを論理的につなげた整理したものである。情報化社会では、大量の情報の中から重要なものを選び、秩序立てて再構成する作業には「要約力」が必要となる。また、要約力は、対話やコミュニケーションにおいても必要である。	
4	読解と要約③		
5	読解と要約④	○教科書掲載の随想、評論などの文章を読み、キーワード、キーセンテンスを見つけることができる。 ○見つけたキーワード、キーセンテンスを用いて要約文を書くことができる。	
6	読解と要約⑤	○文書の主題を理解した上で、自分なりのコメントを書くことができる。	
7	読解と要約⑥	以上の到達目標を段階的に達成できるように、教科書掲載の文章を難易度の低いものから取り上げ、学生の達成状況を見ながら徐々に要約文やコメントを書く条件をレベルアップしていく。	
8	中間まとめ	到達目標が達成できているかテストによって確認する。	
9	図解①	この単元では複雑な事象を理解するため、あるいは効果的なプレゼンテーションを行うための図解のスキルを習得することを目的とする。	○予習 ・前回配布したプリントを見ておく。 ・小テストなどある時は事前に勉強していく。 ○復習 ・授業内容に関連したレポート課題に取り組む。 ・×切に間に合うように必ず提出する。 ・返却された自分のレポートや、優れたレポートのコピーを見ることで、次のレポートの制作に活かす。
10	図解②	ここで言う図解とは、文章の構造を理解して、文中の「関係」を、文中の語句や表現を利用しながら、矢印や図形を使って簡潔に表す手法のことである。	
11	図解③	図は最もシンプルな要約である。複雑な物事や事柄をわかりやすい図として提示できる能力は、プレゼンテーションなどでも必要とされる。	
12	図解④	○基本的な図の書き方を理解した上でシンプルな図解、比較的複雑な図解を書くことができる。 ○短い文章や比較的長い文章を図解することができる。	
13	図解⑤	以上の到達目標を段階的に達成できるように、教科書掲載の文章やその他の新聞記事など比較的図解しやすい短文から徐々に難易度を上げていき、図解力の向上を図る。	
14	図解⑥		
前期末試験			
15	答案返却・解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	問題解説により、授業内容の理解をさらに深めることができる。	

授業の明細

回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	スピーチと短作文①	<p>この単元では話す力、聞く力の両方を向上させるためにスピーチやプレゼンテーションを行う。スピーチの課題は自己PRを目的とした内容のものを中心に扱う。少人数グループを作り、そのなかで毎回スピーチやプレゼンテーションを行う。その際に、前期に学習した図解のスキルを活かして図解資料を作成し、それを用いて行う。</p> <p>○声の大きさ、視線、間、表情等、人を引きつける話し方が理解できる。 ○理解した上で、実際に実践することができる。 ○話し手が話しやすくなる聞く態度を理解できる。 ○実際にスピーチを聞く際にそれが実践できる。 ○スピーチ終了後、本質的で具体的な質問やコメントができる。</p> <p>以上の目標を達成できるように、事前にレポート課題として図解資料を準備して話す時間や回数を十分に確保し、話す時間の長さを徐々に延ばしていくことや、グループの人数を増やしていくなど条件を変えることで、人前でのオフィシャルな話し方を習得する。</p>	<p>○予習 ・前回配布したプリントを見ておく。 ・小テストなどある時は事前に勉強していく。</p> <p>○復習 ・授業内容に関連したレポート課題に取り組む。 ・×切に間に合うように必ず提出する。 ・返却された自分のレポートや、優れたレポートのコピーを見ることで、次のレポートの制作に活かす。</p>
17	スピーチと短作文②		
18	スピーチと短作文③		
19	スピーチと短作文④		
20	スピーチと短作文⑤		
21	スピーチと短作文⑥		
22	中間まとめ	問題解説により、授業内容の理解をさらに深めることができる。	
23	小論文①	<p>この単元では論理的な文章を書く力を習得するために様々な課題や条件で「小論文」を作成する。「小論文」が、社会問題に対して知性や論理性をアピールするものであるのに対し、「作文」は、読み手に対して自分の人柄や性格などを、エピソードを交えて述べる文章であり、両者は異なっている。</p> <p>○作文と小論文の違いを理解できる。 ○決められた型に従って小論文を書くことができる。 ○論理的で根拠が深く鋭い小論文を書くことができる。</p> <p>以上の目標を達成できるように、授業では課題や条件を変えて繰り返し小論文を作成する。3年生の小論文の授業では、現代社会の諸問題をテーマに取り上げる。小論文を書くことで、社会問題に対して自分の意見を持つことができるようになり、その意見を論理的に表現する力を養うことができるようになる。</p>	<p>○予習 ・前回配布したプリントを見ておく。 ・小テストなどある時は事前に勉強していく。</p> <p>○復習 ・授業内容に関連したレポート課題に取り組む。 ・×切に間に合うように必ず提出する。 ・返却された自分のレポートや、優れたレポートのコピーを見ることで、次のレポートの制作に活かす。</p>
24	小論文②		
25	小論文③		
26	小論文④		
27	小論文⑤		
28	小論文⑥		
29	小論文⑦		
学年末試験			
30	答案返却・解説 まとめ 授業改善アンケートの実施	問題解説により、授業内容の理解をさらに深めることができる。	
総授業時間数			60時間